

系統用蓄電所事業に参入

藤巻建設 長野に2カ所開設へ

藤巻建設（長野県飯山市）は送電網に直接つなぐ「系統用蓄電所」事業に参入した。このほど三井住友ファイナンス&リースグループのSMFLみらいパートナーズ（東京・千代田）などと共同出資会社を設立、長野県北部で系統用蓄電所を2カ所開設する。2028年度の運転開始をめざす。

3月にみらいパートナーズ、東芝プラントシステムと3社で設計・調達・建設を一括で請け負う「EPC契約」などを結び、事業主体となる合同会社OPTIRON北信を設立した。藤巻建設は事業用地の権利確保や地域との合意形成、地盤調査などの土木設計関連を担当。

建設するのは2カ所で、6月に着工した木島平蓄電所（長野県木島平村）は出力約52メガワット、容量約100万キロワット時。8月に飯山市で着工予定の連蓄電所は出力約32メガワット、容量約90メガワットを予定する。

藤巻建設は再生可能エネルギー事業を柱の一つとして、太陽光発電や小水力発電などの企画・設計・施工・運営を手掛けてきた。再エネの調整機能を担う系統用蓄電池の需要の高まりを受け、参入を決めた。

今回のプロジェクトはみらいパートナーズからの提案だったが、系統用

蓄電所事業で藤巻建設は複数社から提案を受けているという。今後は「個別案件ごとの事業性や地域との調和」（同社）を勘案し、着実に取り組んでいくとしている。



長野県木島平村に建設する系統用蓄電所の完成イメージ